

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3070104538		
法人名	医療法人 潤生会		
事業所名	たかまつグループホーム		
所在地	和歌山市西高松1丁目5番36号		
自己評価作成日	平成30年11月22日	評価結果市町村受理日	平成31年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=3070104538-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=3070104538-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年1月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

宮本医院併設のグループホームです。医療ニーズの高い方の受け入れも可能です。思い通りにならないことや不自由なことなど、いろいろな個性を持ちながらも、毎日、利用者の皆さんも、スタッフも、ご家族も、みんなで笑い合いながら過ごすことのできるあたたかい施設を目指しています

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは尊厳を大切に温かな環境作り、自立した生活への支援などを理念に謳い、感謝の気持ちを大切に喜んでもらえたことや家族だったらどのような支援をするかなどを会議の中で話し合いながら日々の支援に取り組んでいます。運営推進会議は家族や民生委員等の参加を得て行き、近況や研修内容を報告しホームのことも知ってもらう機会になっており、家族等から知りたいことを聞き腰痛予防や災害対策、認知症等について講師を招いて勉強会を行うこともあり有意義な会議となっています。また、看護職員を配置し日々の健康管理や訪問看護による点滴などの対応の他、個別に訪問リハビリを受けており重度の方も座位保持の練習や歩行訓練を行い、医師とも連絡を取りながら医療との連携体制が整えられています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりに愛情をこめて」という理念のもと、自分の家族だったらどう思うかといつもスタッフ間で話し合い、日々のかかわりの中で取り組んでいます	尊厳を大切に温かな環境作り、自立した生活への支援などが謳われた事業所独自の理念は、職員の採用時も含め込められている思いを職員に伝えています。玄関に理念を掲示し意識できるようにし、感謝の気持ちを大切に日々の支援の中で喜んでくれたことや家族だったらどのような支援をするかなどを会議の中で話し合いながら理念の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治体を通じて行事案内を頂いて参加させていただいたり、季節に応じて施設の花壇を見に散歩に出たりしていますが、重度の方が多くなり難しくなっています	法人として自治会に加入し敬老会には自治会長の出席があり、また運営推進会議には民生委員の参加があり地域の情報をもらっています。花見や毎年地域で行われるよさこい祭りには家族と共に見に出かけることが恒例となっています。隣接する施設に踊りやマジック、ハンドベルなどのボランティアの来訪時には希望者3～4人で見に行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法について利用者家族や会議参加者に機会があるごとにお伝えしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の利用者様の様々なことを報告し意見を聞き話し合いながら日々の業務に反映させサービス向上に努めています	運営推進会議は利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員等の参加を得て開催しています。ホームの近況や利用者の状況、事故対応、研修等の報告を行い意見交換や勉強会を行っています。勉強会では家族等から知りたいことを聞き、腰痛予防や災害対策、認知症等について講師を招いて行うこともあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実際のサービスの中で疑問があれば電話で問い合わせる等、繋がりを大切に、指示や意見を頂きながらケアに取り組んでいます	年に一度運営推進会議の議事録を提出しホームの現状を伝えたり、集団指導を受け日々のわからないことはその都度聞き運営に活かしています。また研修案内が届いた時にはできる限り受講するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、報告しあい理解を深めています。身体拘束をしないことで危険が想定される場合はヒヤリハット等を活用しスタッフ間で共有し、玄関の施錠についても安全の為、入居時に同意を頂いています	虐待や身体拘束についての外部研修を受講した職員がホームで伝達し職員に周知を図っています。行動を制止するような言葉掛けに気を配り理由を説明しながら拘束感を感じないような対応を心がけています。玄関は施錠していますが、入居時に説明し了承を得ており、外に行きたい様子があれば都度外に出るよう支援しています。	

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し内容について職員間で会議などで話し合う場を作り、利用者様のケアに生かしています。運営推進会議でも勉強会をしています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については以前に利用されていた方もおられます。必要性を感じた時には支援したいと思っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族、ご本人と面談し契約内容について不安や疑問点について十分に説明させていただいております。内容の改定時には新たに説明させていただき、ご理解いただいております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しています。またアンケートを実施したり、運営推進会議や日々の面会時などのご要望を取り入れ運営に反映しています。	日々の面会時や運営推進会議、家族会の機会に家族から意見や要望を聞いています。意見を受けてリビングに音楽をかけるようにしたり、見学の受入れに取り組む他、個々についての意見にはその都度対応しています。日常的に利用者の意向を聞くことができるよう関わり、食べたいおやつを買ってくるなどサービスに反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常業務の中で各職員が活発に意見を発言し、日々の運営に反映させています	毎月行う会議では職員が主体的にやりたいことや意見を出し合えるようにし、朝食のメニューや行事の内容、リビングの飾りつけ等様々な提案があり実践したり、シフトの組み換え等を行うことで運営に反映しています。管理者は新人職員や職員の様子を見てコミュニケーションを図り意見を言いやすいように配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	限られた環境の中ではありますが、研修や講習へ参加できるよう職員数を配置して働ける環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に職員が交代で参加し、全職員で共有しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等機会があれば積極的に参加し、同職種の方々と交流する機会を作っています。グループワーク等で意見を交換し、気づきや反省点等を職員間で話し合いケアに反映させています		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用頂く前にご本人と面談し、ご要望等を聞かせて頂き、いろいろお話しながら少しでも不安等を軽減し安心してご利用頂ける様に努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用頂く前にご家族とも面談し、心配等や要望等を聞かせて頂き、それに応じた説明させて頂いて安心してご利用頂ける様に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、職員だけでなく医師、看護師、理学療法士等とも話し合いを重ね、今必要な支援について検討し対応しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テレビや雑誌等を見ながら最近のいろいろな話題でお話したり、昔の思い出話等をお聞きしたり、利用者様との会話を大切に、支えあう関係づくりに努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にもケアについて相談し、一つ一つ理解しながら、ご本人、ご家族、職員が一緒に笑い合える関係づくりに努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居によってご家族と疎遠にならに様にご本人の要望等をお伝えし、できるだけ訪問して下さる様をお願いしています	以前近所に住んでいた方や親戚等の面会があった時には居室やリビング等の過ごしやすい所を選んでもらいお茶を出したり会話がスムーズにできるように職員が間に入る等の支援をしています。馴染みの人や場所については日々のコミュニケーションから聞き取り、ドライブで通ったりスーパーに出かけることもあります。	

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの座席の配置等をスタッフ間で話し合い、いろいろ検討しながら利用者様同士がより良い関係を築ける様に努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調が悪化し入院され利用が終了した後も、時折お見舞いに伺い、その後の状況等をお聞きし、今後の相談や支援に生かせるように努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が可能な方には出来るだけ本人希望や意向を聞き取る様にしています。困難な場合には利用者様の立場になり考えるようにしています	入居前には自宅や施設など利用者が暮らしている所で面談し、暮らし方や好み、趣味、馴染みの物や人などを聞いたり、家族からも書面に記載してもらい情報を得て思いの把握に努めています。入居後は日々の関わりの中でコミュニケーションを図り新たな思いを知ったり、表情や行動から思いを汲み取るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活に関わっていたケアマネジャーから今までの生活について情報収集し、より自宅に近い環境での生活の場になる様に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、利用者各人の残存機能や出来る事について、スタッフ間で話し合い共有し、それぞれの状況に合わせて支援しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況に合わせ、カンファレンスを開き、家族、スタッフ、看護師、必要に応じて医師の意見を伺いながら、その都度ケアの方法を検討し介護計画に反映させています	本人や家族の思い、心身の状況をアセスメントし介護計画を作成しています。3か月毎にモニタリングを行い見直し、見直しに当たっては再アセスメントを行い家族の意向や看護職員の意見ケアカンファ連での話し合いの内容を反映した計画となるよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子や体調等を職員間で共有しています。個別記録は介護計画の見直しの際に生かせるように利用者の状況を分かりやすく記入する様にしています		

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ訪問看護の利用やデイへの参加などを検討し、スタッフ同士でも創意工夫しながら柔軟な支援に努めています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に一度の地域でのお祭り「おどるんや」の時には利用者、家族も一緒に最前列で観賞できるよう、地域の方々にも配慮して頂き楽しんでいきます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望されるかかりつけ医を受診して頂いています。受診後、ご家族、主治医から情報を頂くようにしています	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明し、現在は全員がその人に合わせた間隔でホームの提携医を受診したり状況に応じて往診を受けています。以前から通院していた大学病院等には家族の協力を得て受診し、眼科や整形外科等の専門医はホームで対応しています。日々のケアは看護職員が行い、訪問看護師の来訪により点滴などの医療行為に対応してもらっています。24時間連携体制があり体調によっては看護師に連絡をとり医師に指示をもらうこともあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、いつでも相談が可能。また訪問看護ステーションたかまつからの訪問もあり、本人の状況をいつでも相談できる状況にあります		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、その病院にできるだけ早くお伺いし、入院前の情報を伝えています。退院前のカンファレンス等にも伺い、担当看護師から説明を受け、医療的な処置がある場合も対応できるよう連携しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には終末期のあり方についての希望などご家族、ご本人に伺うようにしています。またその都度ごとにご本人、ご家族、主治医等と話し合い、方針を共有し、支援に努めています	入居時にはホームの指針にそって重度化した場合に支援できることやできないことを説明し希望を聞いています。実際に重度化した時には管理者や看護師が中心になって家族と医師と話し合いを持ち、方針を決めています。病院に入院となる場合も多く、できる限りホームで過ごすことができるよう職員間で話し合いながら支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の会議で話し合ったり、研修し、また看護師の指導で初期対応や応急処置についての訓練を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施しています。非常災害対策として、火災、地震、津波などにも対応できるマニュアルを整備し、いろいろな場合を想定した訓練を行うようにし、職員の他に、民生委員、地域包括、家族等多くの方々に参加頂いています	年に2回行う消防訓練の内1回は消防署の立ち会いの下、夜間想定で通報や初期消火、車いすの利用者も外へ出る等の避難誘導を行っています。運営推進会議を兼ねて行い民生委員や家族等の参加を得たり、家族会でも協力依頼をしています。また飲料水や食料などの備蓄をしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や着脱時の介助の際はカーテンをするなど、プライバシーを損なわない工夫をしています。毎日の声掛けについても尊厳を損なう言葉を使っていないかなど、職員同士で注意しあい、尊厳とプライバシーの確保に心がけています	接遇マナーや人権、プライバシー保護の研修を行い個々の利用者の尊厳を大切に失礼のない対応を心がけています。排泄介助時の声掛けは周囲に配慮し、希望する方にはできる限り同性介助で対応をしています。不適切な対応がみられた時にはその都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の着る服を一緒に選んだり、食べたいものや好きなものをお聞きしメニューを相談するなど利用者ごとに自己決定できるようなことは声掛けさせていただいています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調等も考えながら、なるべくご本人の希望通りの過ごし方ができるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい洋服を一緒に選んだり、洗濯方法にこだわりがある方にはそのようにさせて頂く等、その人らしくを大切に支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、調理するときには一緒に出来るところを手伝っていただいたり、片付けにも参加頂いたりしています。それぞれの利用者の好き嫌いにも注意し、食べやすい形状にするようにも気をつけています	3食とも併設する施設の厨房で作られた旬の物や季節の行事に合わせた食事は届き、利用者の食べやすいような形状にして提供しています。重度化し個々のペースに合わせてコミュニケーションを取りながら食事介助をしています。よさこい祭りを家族と見に行く時には弁当を取り一緒に食事を楽しみ、今後おやつ作りを行いたいと検討しています。	検討中であるおやつ作りや時にはホームで食事作りを行い、利用者にもできる事に携わってもらったり一緒に食事と摂るなど楽しむ機会を増やされることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録し常に問題ないか注意しています。摂取量が少なくなっている利用者様がいれば主治医に報告し対応しています。利用者様は皆食べる時間早さ等異なりますが出来るだけ十分に摂取頂ける様ご本人様のペースに合わせて対応しています		

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人でできる方には声かけし見守り、確認させて頂いています。介助が必要な方には一人ひとりに応じた介助方法で介助させて頂いています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握し、トイレにの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っています	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、個々の利用者のタイミングでトイレに行けるように支援しています。パッド交換を自身で行ってもらう方がいたり、重度の方も排便時にはトイレに座れるように支援するなど、個々の状況に合わせた支援ができるよう職員間で話し合いながら支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く使用し、水分摂取量にも注意しながら自然な排泄ができるよう支援しています。必要に応じて緩下剤を服用して頂き、便秘予防に努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに入浴の希望をお聞きしています。体調のよくない利用者様に関しては、体調の良い時を見計らって入浴できるように支援しています	入浴は週に2回午前中に支援することを基本的に必要や希望で増やすことも可能です。個々の好みの湯温や時間などに配慮し、個別のシャンプーや保湿剤を使用したり柚子湯をすることもあり、入浴を楽しめるように支援しています。拒否される方はいませんが、体調に合わせて日を変える等の配慮をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、おひとりおひとりの状況に応じて好きな時間にお好きなところでお休み頂いています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者様の服薬内容についてはファイルに入れ、職員がいつでも確認できるようにしています。服薬時は間違えないよう複数の職員で確認しています。また、症状の変化時は医師や看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に聞かせて頂いた生活歴や、その後の生活から好きなことや楽しめそうなことを皆で考え取り入れながら、毎日張り合いや喜びのある日々となる様に支援しています		



たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度の方が多く、日常的に外出は難しいですが、状況が許せば、可能な方だけでも散歩の機会を持つようにしています。また、毎年、ご家族と一緒にお花見を行っています	重度化に伴い外出の機会が少なくなっていますが、時にはホーム周辺に散歩に出たり和菓子屋に行くこともあります。受診のために外出したり、桜の花見やよさこい祭りの行事は家族と一緒にしています。また、家族の協力を得て買い物や外食に行く方もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所ではお金は預かっていません。必要なものやご本人様が欲しい物があれば家族に連絡し、持参いただいています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば自由にご家族に電話をして頂いたり、ご本人の伝言をご家族に伝えたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の飾りを置いたり、ゆっくりと過ごせるスペースを確保し、居心地よく過ごしていただける様に工夫しています	共有空間はクリスマスや正月飾りなど季節が感じられるように配慮したり、日々の様子や行事の写真を飾っています。畳のスペースでは重度の方が日中横になれるようにしています。利用者が動きやすいように家具の配置を考えその日の様子を見て座席を決めることもあります。毎日換気や掃除を行い、温湿度計をチェックしながら濡れタオルを利用し調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士がゆっくり話ができるようテーブルの座る場所を工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人、ご家族の思うように、また居心地の良くなるように写真やご自宅での馴染みのものをご持参いただいています	馴染みの物や使い慣れた物を持って来てもらうよう説明し、タンスやテーブル、椅子等の持参したものを加増と相談し配置しています。ラジカセを置いたり孫などの家族の写真を飾りその人らしい居室作りを心がけ、冬季は加湿器や濡れタオルで湿度が保てるよう努めています。ベッドではなく布団を敷き休んでいる方や家族が季節毎に花を飾っている方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使って歩いて頂いたり、利用者様一人ひとりに応じた出来る範囲で安全に自立した生活が送れる様に工夫しています		